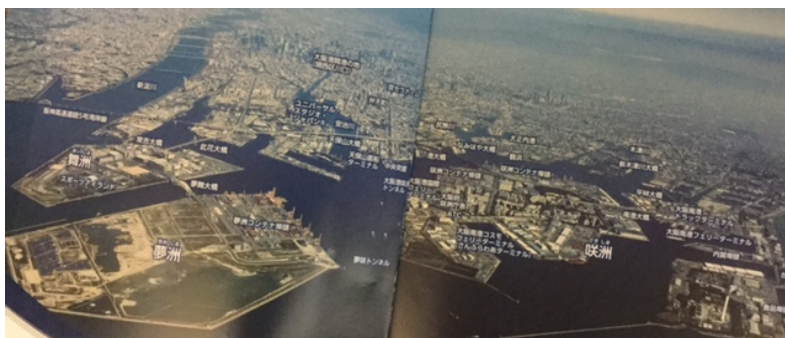


舞洲から夢洲を望む

写真上は『Port of Osaka 150th 1868…2017』2018年より。大阪港や湾岸部が一望できる。手前がカジノ・万博の予定地の夢洲。まだ埋立中なのが、写真からも分かる。東側は夢洲コンテナ埠頭で、クレーンが並んでいる。夢洲の隣が舞洲であり、夢舞大橋が見える。



これまでは夢洲を対岸の大阪府咲洲庁舎展望室から眺めてきた。年末の寒いときに時間を、JR 西九条駅から

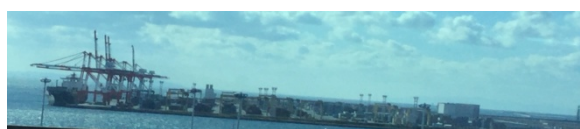
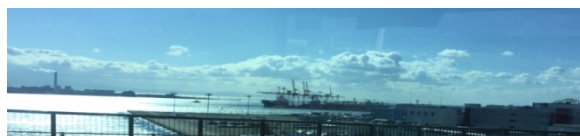
大阪シティバスで舞洲スポーツアイランド終点まで行ってきた。舞洲から夢洲を眺めるためだ。バスは数人のお年寄り(私もその一人だが)を乗せて、此花区の新日鉄住金などの工場地帯を走った。工場横に、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンがすこし見えた。

此花大橋を渡ると、そこは舞洲である。年末なので、立ち並ぶ事業所や施設も休みのようで、閑散としていた。たくさんの大型トラックが駐車していた。

この舞洲は約 220 ヘクタールの人工島で、今は大阪市・八尾市・松原市環境施設組合舞洲工場、独特なデザインのスラッジセンター、物流センター、スポーツ施設などがある(写真は『街の達人 大阪便利情報地図』昭文社)。

バスの終点で降りたのは、私だけであった。夢洲を見ようと、小高い丘に上った。遠くに六甲山や淡路島は望めたが、夢洲は建物に邪魔されて、あまり見えなかった。場所を変えて写真を撮るために、海沿いまで行こうとしたが、寒風が吹きぬけており断念した。

帰りのバスの此花大橋から、なんとか夢洲コンテナ埠頭や対岸の咲洲を撮ることができた。こうして舞洲まで来てみると、臨海部の現状、夢洲との関係などを実感できる。また、舞洲から夢洲を眺めに來ることにしよう。



(2019年1月4日)